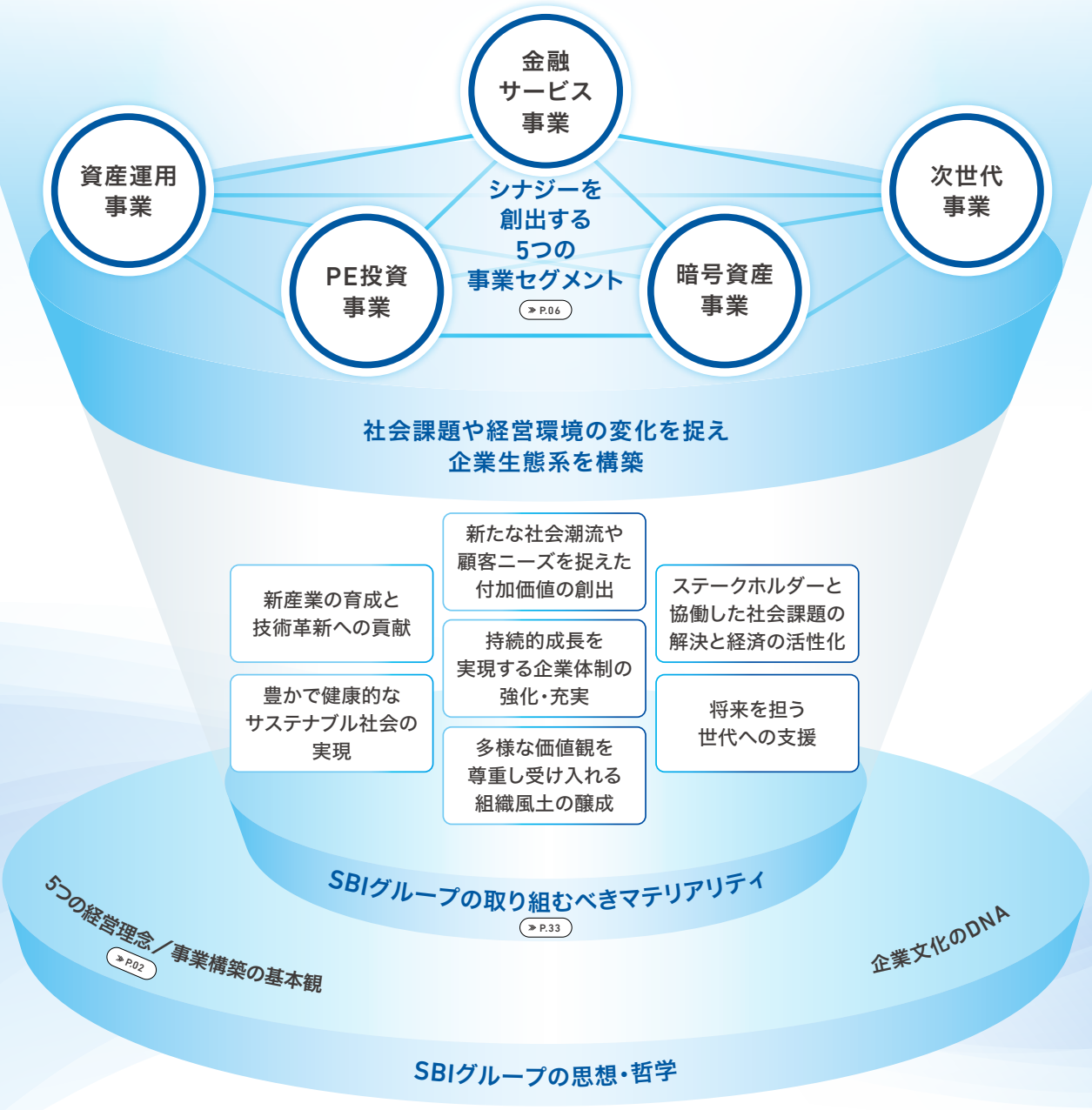
SBIグループの価値創造プロセス

SBIグループの存在意義とは

「世のため人のため」に資する革新的な事業を創造し、より良い社会を実現する

SBIグループは、金融とテクノロジーの融合により、社会課題や経営環境の変化を捉えた事業活動を通じて成長を遂げてきました。「企業生態系」という独自の仕組みを構築し構成企業間の連携を図ることで、グループ全体の価値向上を実現しています。私たちは「世のため人のため」に資する企業活動こそが持続的な利益の源泉であると確信しています。今後も、革新的なサービスを通じてより良い社会の実現に貢献しながら、持続的な成長を目指していきます。



経営の根幹を成す考え方とは

「経営理念」と「事業構築の基本観」が全ての意思決定の基盤

「経営理念」とは、経営トップの交代や事業環境の変化があっても簡単に変更されることのない、企業の普遍的な価値観や存在理由を示すものです。すなわち、組織の依って立つ礎であり、それによって企業は長期的な目標を明確にでき、社員は働く目的を共有できるようになると考えています。そしてSBIグループでは、経営理念を軸としながら、経営政策の要となる「事業構築の基本観」に基づいて各事業を展開し、事業活動を通じて社会に貢献することで、社会との共存共栄を図っています。



正しい倫理的価値観を持つ

「法律に触れないか」、「儲かるか」ではなく、
それをすることが社会正義に照らして正しいかどうか
を判断基準として事業を行う。

金融イノベーターたれ

革新的技術を導入し、
より顧客便益性を高める
金融商品やサービスを提供することで、
従来の金融のあり方に変革を与える。

新産業クリエーターを目指す

21世紀の中核的産業の創造
および育成を担う
リーディング・カンパニーとなる。

セルフエボリューションの継続

「創意工夫」と「自己変革」により
経済環境の変化に柔軟に適応すべく、
自己進化し続ける。

社会的責任を全うする

SBIグループ各社は、社会の一構成要素としての
社会性を認識し、様々なステークホルダー（利害関係者）の
要請に応えつつ、社会の維持・発展に貢献していく。

「顧客中心主義」の徹底

SBIグループでは創業以来「顧客中心主義」を貫くことを徹底し、株式売買委託手数料での価格破壊、好金利の預金商品の提供、業界最低水準の保険料の実現など、革新的な技術を活用して価格競争力を持つ商品・サービスを提供することに加え、お客さまのニーズに合わせた商品ラインナップの拡充等にも努めてきました。

近未来を予見した戦略の策定と遂行

SBIグループは、効率的なシナジーを生むとともに相互に一体感を強めるため、「全体戦略」と「個別戦略」を策定し事業に取り組んでいます。全体戦略は、社会問題や国家目標などに合致し、時代の変遷を見ながらグループを挙げて取り組むもので、その全体戦略が効率的に各子会社に伝播され具体的な個別戦略となり、統一的な目標を達成する動きとなります。

「企業生態系」の形成とシナジーの徹底追求

SBIグループでは、「全体は部分の総和以上である」「全体には部分に見られない新しい性質がある」という「複雑系の科学」の二大命題をもとに、単一の企業では成し得ない相乗効果と相互進化による高い成長ポテンシャルを実現する経済共同体として、「企業生態系」を構築してきました。

公益は私益に繋がる

「社会なくして企業なく、企業なくして社会なし」という考えのもと、「世のため人のため」となる「公益」に資する企業活動をしていけば、それは結果として自社の利益にも繋がると考えています。

革新的技術に対する徹底的な信奉

SBIグループは、革新的な技術開発が世界的に進展するフィンテック領域やAI、ブロックチェーン、デジタルアセット、量子コンピュータ、核融合といった成長分野における国内外の有望なベンチャー企業に「投資」し、投資先企業の有する新技術等をグループ内金融サービス事業各社へ「導入」、そしてそれらの技術を業界横断的に「拡散」するという3つのプロセスを通じ、成長を推進しています。

金融を核に金融を超える

あらゆる財貨・サービスの動きと金融は表裏一体であるという認識のもと、SBIグループは金融のプロフェッショナルとしてこれからも金融事業を推進するとともに、金融事業と相乗的な効果を生み出す新たな事業領域へも進出し、国内外の様々な社会課題の解決に挑む事業体であり続けます。

創業からの変わらぬ想い

世のため人のため

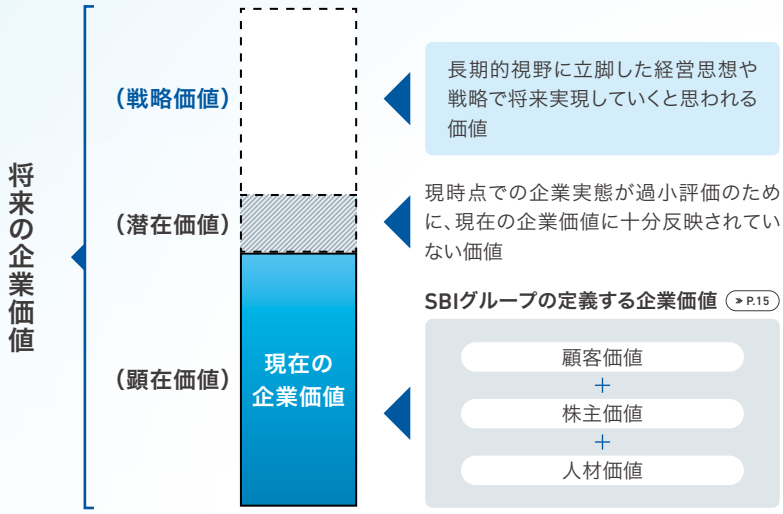
常に時流を捉えて、「世のため人のため」に資する革新的な事業を創造することが、創業時からの私たちの変わらぬ想いです。SBIグループでは5つの経営理念を起点として、事業構築の基本観に基づいて事業を展開しています。そして、世の中の様々な不条理な部分を、特に金融面で変え、新たな付加価値を創出していくことがSBIグループの大きな事業ミッションです。事業を通じた社会課題の解決こそが、社会と当社グループの双方に持続的な成長をもたらす――この「公益」と「私益」双方の追求が、当社グループを貫く事業精神です。

持続的な成長を実現するには

経営思想と長期的な戦略こそが将来の企業価値を決める

SBIグループでは、顕在化している企業価値を「顧客価値」「株主価値」「人材価値」の総和として捉えています。この現在の企業価値に、企業実態が十分に反映されていない「潜在価値」と、経営思想と長期的な戦略からなる「戦略価値」が組み合わさることで、「将来の企業価値」が決定されると考えています。

この戦略価値の具現化に向けて、長期的視野を持ち、時流を的確に捉えた全体戦略を打ち出すことで、各グループ企業もまた個別戦略へと落とし込んでいます。そして「自己否定」「自己変革」「自己進化」のプロセスを不断に繰り返し、緻密な戦略を立て、企業価値の継続的創造を効率的に成し遂げていく企業であり続けます。



SBIグループの誕生

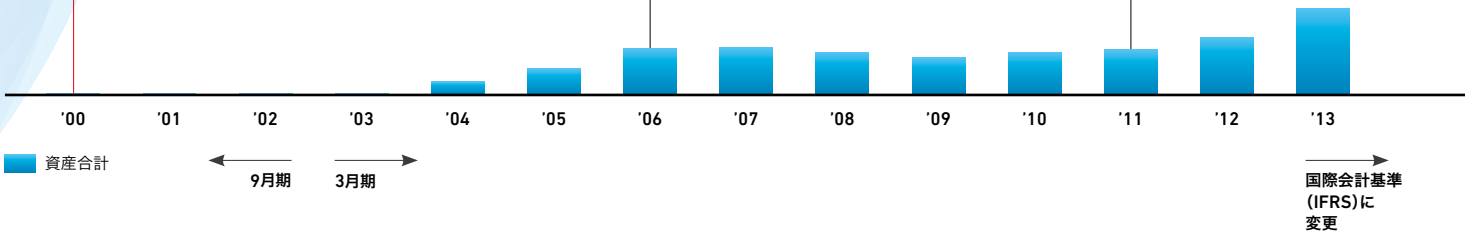
1999年4月にソフトバンク（株）（現 ソフトバンクグループ（株））の金融子会社としてソフトバンク・ファイナンス（株）が設立されSBIグループがスタート。更に1999年7月、ベンチャーキャピタル事業を営むソフトバンク・インベストメント（株）（現 SBIホールディングス）が設立されました。

日本のSBIから世界のSBIへ

SBIグループは、2005年に日本の所得収支が貿易収支を逆転したことを契機に、中国をはじめ、アジア地域を中心とした潜在成長力の高い新興諸国での投資体制の整備を加速させ、現地有力パートナーと共同でファンドを設立し投資を行ってきました。グローバル投資体制を一層強固にするとともに、アジアを中心に金融サービス事業の展開を推進しています。

選択と集中

パリバショックを端緒に経済環境が悪化する中で、グループ規模の拡大から収益性を重視する経営へと転換。金融サービス事業における3大コア事業とのシナジーが弱いノンコア事業の売却や、シナジーをより発揮しやすい形へのグループ内での組織再編など事業の「選択と集中」を徹底し、そこで創出したキャッシュをはじめとするグループのリソースを主要事業に集中投資することで、赤字事業の早期黒字化や黒字事業の更なる拡大等、グループ全体の収益性強化を実現しました。



社会動向

- 日本版金融ビッグバン
- インターネット革命
- 日本の貿易収支と所得収支の逆転
- リーマンショック
- フィンテックの台頭
- アベノミクス

フィンテックの発展とブロックチェーンの活用

これまでSBIグループは、インターネットを中心とした金融生態系を構築することでグループの飛躍的成長を実現してきました。更に、革新的技術の一つであるブロックチェーンを中核とする、デジタル金融生態系への進化を目指し、SBIグループの金融サービスにおける様々なフィンテックの導入とブロックチェーン・分散型台帳技術を用いたデジタルアセット関連事業を展開してきました。

メディア領域への進出

デジタル金融やAIといった新技術の勃興により、メディアと金融はいずれも情報流通のハブとしての役割を持つものとして、両者の融合が進んでいます。SBIグループにおいても、既存の金融生態系やデジタルスペース生態系等とシナジーを発揮するネオメディア生態系を構築し、SBIブランドの一層の浸透および新規顧客の創出、更にはデジタル分野での新商品・サービスの開発とマーケティング力の強化を図ります。 ➤ P.20

地方創生への貢献

SBIグループでは国家戦略である地方創生に貢献するべく、全国各地の地域金融機関との提携を拡大してきました。それによって、地域金融機関に質的転換を促し、収益力強化とそれに伴う企業価値向上を図る取り組みを進めています。今後は、「第4のメガバンク構想」の具現化に向けてSBI新生銀行をコアとした広域地域プラットフォーマー化を目指します。

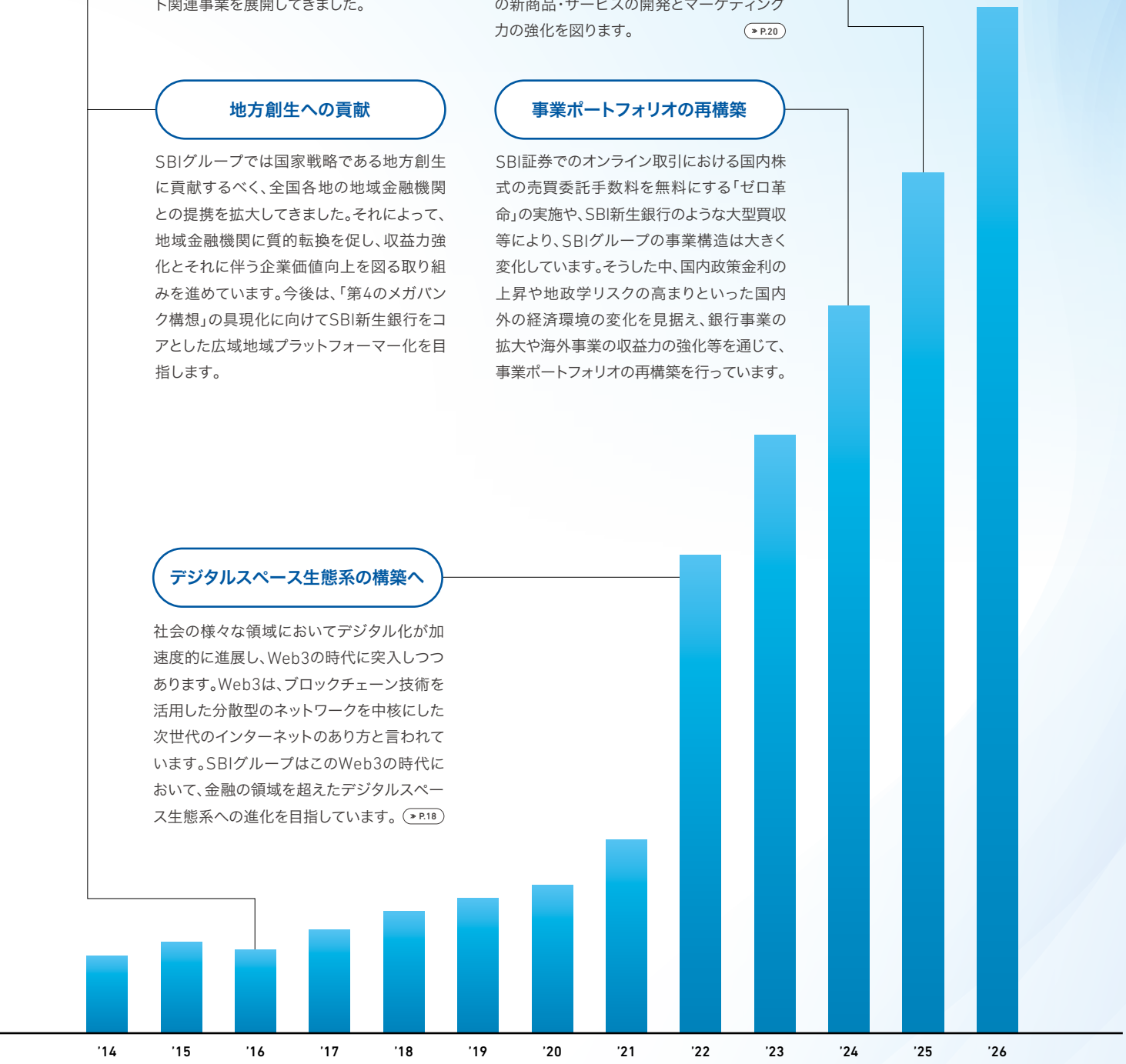
事業ポートフォリオの再構築

SBI証券でのオンライン取引における国内株式の売買委託手数料を無料にする「ゼロ革命」の実施や、SBI新生銀行のような大型買収等により、SBIグループの事業構造は大きく変化しています。そうした中、国内政策金利の上昇や地政学リスクの高まりといった国内外の経済環境の変化を見据え、銀行事業の拡大や海外事業の収益力の強化等を通じて、事業ポートフォリオの再構築を行っています。

デジタルスペース生態系の構築へ

社会の様々な領域においてデジタル化が加速度的に進展し、Web3の時代に突入しつつあります。Web3は、ブロックチェーン技術を活用した分散型のネットワークを中核にした次世代のインターネットのあり方と言われています。SBIグループはこのWeb3の時代において、金融の領域を超えたデジタルスペース生態系への進化を目指しています。 ➤ P.18

2026年3月末
資産合計
38兆2,908億円



※2012年3月期以前の「資産合計」は日本会計基準の「総資産」の数値を記載

● 地方創生の推進
● 新型コロナウイルス感染症の拡大
● ロシアによるウクライナ侵攻
● マイナス金利政策解除

戦略に基づく事業展開とは

金融を核に事業領域を拡大し グループシナジーを創出

SBIグループは、創業以来、銀行・証券・保険などの金融事業とベンチャーキャピタル事業を中核に、既存事業とのシナジーを生み出す新たな事業領域に進出し、現在では5つの事業セグメントから成る独自の「企業生態系」を形成しています。構成企業間で相乗効果を生み出し相互進化することで、既存の企業生態系を発展・進化させるとともに、新たな企業生態系と融合させていくことで、グループ全体の飛躍的な成長に繋がっています。



金融サービス事業

インターネットをメインチャネルとした、革新的で利便性の高い金融商品・サービスを提供。銀行関連事業、証券関連事業、保険関連事業を中心に、グループ各社間の有機的な連携を通じて多様なニーズに応える体制を確立し、グループの収益の柱として強固な金融生態系を構築しています。

SBI新生銀行の総預金残高
17.3兆円
（2026年3月末時点）

SBIグループの証券口座数
1,600万口座超
（2026年5月1日時点）

SBIインシュアランスグループの保有契約件数
318万件
（2026年3月末時点）

証券事業における「ゼロ革命」

「顧客中心主義」を徹底し、オンライン取引における国内株式の売買委託手数料を無料化する「ゼロ革命」を2023年9月より開始。投資家のコスト負担を削減し、個人投資家層の裾野を拡大することで「金融イノベーターたれ」という使命を体現。

地方経済の活性化を支援する「第4のメガバンク構想」

「公益は私益に繋がる」に基づき、SBI新生銀行を核とした「第4のメガバンク構想」を推進。資本関係の有無によらず地域金融機関と連携し、システムや業務プロセスの効率化等により規模の経済性を追求することで、地域金融機関の活性化を通じた地方創生への貢献を志向。

資産運用事業

公募・私募投資信託の組成や運用、個人投資家向けの投資教育・助言事業を通じて、個人投資家から機関投資家まで、多様な資産運用ニーズに対応。グループ各社との連携のみならず、米国のピムコ社、アライアンス・バーンスタイン社、ステート・ストリート・インベストメント・マネジメント社といった世界有数の運用機関との提携等により、多様な運用商品を提供可能な体制を構築し、投資家の最適な資産形成に貢献しています。

SBIグローバルアセットマネジメントグループの運用資産残高

13兆円超

（2026年4月20日時点）

オルタナティブ投資の民主化

英国マン・グループ社や米国KKR社、フランクリン・テンプルトンといった、オルタナティブ領域に強みを有する世界有数の運用会社との戦略的提携により、これまで個人投資家には投資機会が限定されていたオルタナティブ投資商品の提供を開始。「顧客中心主義」の下、伝統的資産に捉われない分散投資の選択肢を広げ、投資家の皆さまの投資ポートフォリオの効率化と最適な資産形成に貢献。

PE投資事業

主にベンチャーキャピタルファンドの運営を行っており、ハンズオンにより投資先企業の成長を支援しています。最先端技術を有するベンチャー企業への投資を通じて、その技術をグループ内に導入し、更に業界横断的に拡散することで、投資先の企業価値向上とグループ全体の持続的成長を牽引する役割を担います。

SBIグループにおける累計投資先社数

2,908社

（2026年3月末時点）

次世代成長領域への戦略的投資

「新産業クリエーターを目指す」の下、最先端テクノロジー分野への投資と育成を推進。グローバルな知見とネットワークを駆使して革新的技術の社会実装を支援し、次世代産業の育成を通じた経済発展に貢献。

暗号資産事業

金融とデジタルが融合する時代の到来を見据え、金融生態系の高度化を図るべく、国内の暗号資産取引所事業を運営するSBI VCトレードおよび世界有数のマーケットメイカーである英国B2C2を中心に事業を展開。また、暗号資産やその基盤技術であるブロックチェーン等に関わる様々な事業に参入するなど、デジタルスペース生態系の構築を推進しています。

SBI VCトレードの口座数

200万口座超

※VCTRADE、BITPOINT両サービスの合算

（2026年7月6日時点）

次世代事業

アミノ酸の一種である5-アミノレブリン酸（5-ALA）関連事業のほか、Web3関連事業、金融・メディア・ITの融合による新たなメディア領域の創出を推進するネオメディア事業等、金融の枠を超えた先進的事業を推進し、グループの次なる成長の芽を育成することを目指しています。

SBI MUSIC CIRCUSが運営するイベントの12年間累計動員数

約66.5万人

（2026年6月末時点）

次世代の金融インフラの構築

「金融イノベーターたれ」の下、ブロックチェーン技術の活用による「金融のオンチェーン化」を推進。国内外の有力な事業者と提携し、ステーブルコインの国内発行・流通に向けた取り組みを進めるなど、次世代のデジタル金融への逸早い移行を推進。